



測量と私

大阪府 (株)GIS関西 西江 国子

私と測量との出会いは20年以上前、年号が昭和から平成へと変わった年でした。大学受験に失敗し、「どこでもいいから“学校”と名の付く場所に納まりたい。」その一心で、まだ募集に間に合う大阪市内の測量専門学校に入学しました。新たな時代の幕開けとともにやはり新たな環境でスタート地点に立つ友人たちが羨ましく、自分一人だけが取り残された不安感と惨めさを払拭しなかったという決して格好の良くない理由が全ての始まりでした。

決して前向きではない感情でスタートを切った私の測量生活が今現在も続いているのには、大きな理由が2つあります。1つは単純に測量や土木が好きになったからです。測量の専門学校を卒業して最初に勤めた会社では用地測量や調査関係の仕事を、次に務めた会社では、地形測量や基準点測量などの他にも情報部門の仕事にも携わることが出来ました。現在お世話になっている(株)GIS関西では、主にMMS(Mobile Mapping System)に関する業務を行っています。

月に数回は計測車両にオペレーターとして乗車し、衛星状況や画像の取得状況に目を配って



います。社内では処理後のMMS取得データから道路骨格などの図化作業を行っています。しかしながら、長年に渡り実測作業に携わってきた私にとっては、MMSも含めたデータ整備の仕事は、戸惑うことばかりです。特にMMSの登場は衝撃でした。TS(トータルステーション)による図面と、MMSから図化した図面を重ねても、ほとんどズレが無かった時は、暑い日も寒い日もTSを担いで歩いた同僚や私自身の姿を思い出し、正直なところ複雑な心境になりました。このことは、これまでの自分自身を否定されたような気持ちになったからです。

しかし今では、自分が非常に幸せで恵まれた人間だと思っています。なぜなら、このMMSは従来の測量技術と共存し、雇用機会均等の面からも“初めて”を経験でき、“知らない”“分からない”事に悪戦苦闘することが出来るからです。新技術に対して、恥ずかしさや悔しさを感じるたび、逆転の発想で「そこに私の伸びしろがまだあるんだ!」と、自分に言い聞かせています。「絶対に技術者として全うして見せる」と。

私が測量を辞めず、土木全般を好きになったもう1つの理由に阪神大震災が有りました。社会人5年目を迎える年でした。「一個人としても技術者としても社会貢献したい。安全安心のまちづくりをしたい。愛する人、愛してくれる人の生活を守りたい。」勤めていた会社を辞めて大学の土木科に進むのに全く迷いはありませんでした。

そして、16年後に東北地方太平洋沖地震が起きました。一瞬で全てが無に帰する恐ろしさと虚しさに、しばらくはニュースにも新聞にも目を向ける事が出来ませんでした。愛する人を

失った方々の姿を目にするたびに、想定外の自然の驚異は、測量も土木も無力としか思えなかったからです。

今、周りの友人や知人の中には東北へ行く人が増えています。「人として技術者として出来る事をしたい」というのが理由です。そんな友人たちの背中を見ていると「私に何が出来るのか？何をどうすべきなのか？」自問自答する日々が続いています。

復興には長い時間がかかるでしょう。今現在の私を取り巻く状況から逃げずに社会貢献をしていくには、私自身の知識や技術力、経験を培

うしかありません。MMSのように車両で移動しながら高精度デジタルデータを取得出来る技術は、今後の街づくりにも必ず活かされるはずです。それまでは東北の人たちが長い冬を越えて春を迎える日を待つように、私も技術者としてもう一皮脱皮できるまでは地道に学び続けるしかないと思っています。

最後になりましたが、辛抱強く私にチャンスを与え続けて下さる会社や上司、励ましてくれる同僚に心から感謝を述べたいと思います。

「ありがとうございます。これからも宜しくお願いします。」

